座談会

稲山訪欧ミッション＝誇り高き国に通じない無手勝流外交
台　湾＝中国大陸との縁は蒋経国時代まで

出席者

E　元外交官
F　製造会社役員
G　企業幹部
H　経済評論家
W　中国問題研究家
X　外報部記者
Y　台湾問題研究家
Z　外交評論家

漫画　那須　良輔

■稲山訪欧ミッション

誇り高き国には通じない無手勝流外交

本社　稲山経団連会長を団長とする訪欧経済使節団が一〇月二三日帰国しましたが、予想以上の厳しい対日批判を浴びたようです。今日はこの稲山使節団の評価と今後の日欧関係について忌憚のない話を聞かせてください。まず今回現地の状況をつぶさに見てこられたGさんから口火を切っていただけますか。

G　使節団の出発前から「大変損な役割だ。具体的に何を言いに行くのか、貿易摩擦解消の切り札もない。ここは頭を下げて、相手の非難が通り過ぎるのを待つだけだ」というようなことを稲山団長自身が言っていた。

その直前に経団連の花村ミッションが欧州へ行って、大変風当たりが強いことはわかっていたし、向こうは手ぐすね引いて待っている。それで、話し合いの成果みたいなものが期待できないということは予想されていたんだ。

問題は準備不足

H　予想を上回る非難といっても、もう少しうまく対応する余地はあったんじゃないか。

G　まず人数が多過ぎた。そのうえ、財界の超大物をそろえすぎたのも、かえって使節団の動きを制約したね。

出発前の勉強会でも、外務省や通産省など日本政府としての説明を聞くにとどまって、向こうが厳しく非難してきたときに、どう対応するのかという戦略を練るだけのゆとりもなかった。

H　その辺が向こう側に、いかにも策がないという感じを与えてしまった。

G　そうなんだ。具体的なおみやげみたいなものを提出できなくても、お互いに言うべきことを言う。外交辞令ではなくて本当に率直な話し合いができたなという印象は与えようと思えば、与えられたと思う。

F　交渉の技術というか、通訳も含めて、いろいろ問題もあったと聞くが……。

G　会談のアレンジは主として外務省の人がやった。通訳も外務省の人が選んでくれたんだが、使節団の方では、だれが通訳してくれるのが、事前にはわからなかったんだ。国際交渉では、普通日本側のスピーカーと

今週の問題 1489

「何を言ってもダメ，何も言わなくてもダメ」――使節団の一員が半ばあきらめ顔でもらしたように，稲山訪欧経済ミッションの〝成果〟は，芳しいものではなかった。年間100億㌦を越すECの対日貿易赤字を手っとり早く解消する妙案はたしかに存在しない。しかし，それ以前の問題として，日本側の準備不足の無手勝流外交が，EC諸国と無用の摩擦を生む原因になったことも否定できないようだ。通訳と事前の打ち合わせも十分できなかったことも少なくない。日本の対西欧外交は，意識革命を迫られている。

（写真＝ドレフュス仏産業相と握手する稲山団長――WWP）

通訳との打ち合わせが必要なんだが、そういうこともやらなかった。

それで一部に意思の疎通を欠いたため、通訳がもたもたしたということもあった。そういう点は、技術的準備をもう少しきめ細かくやっていたらよかった。

F 以前土光ミッションが西欧に行ったときも準備が悪くて、ひどい集中砲火を浴びたね。そういう経験が十分に生かされていたとは言えないね。

G 今回もオランダでは、朝早くから会議があるというのに、通訳が前日の夜遅くロンドンから飛んでくるような状況だったらしい。

強硬な英仏の深層心理

本社 EC内部でも、国によって日本に対する姿勢が違うという印象を受けるのですが…。

G そうだね。特に日本から見た貿易摩擦の相手国は英国とフランスなんだ。

オランダ、ベルギーなどは「我々だって保護主義を排していかなければ生きていけない小国なんだから、特に文句をつけようとは思っていない」と言っている。「ただ考えて欲しいのは、我々もECのメンバーなので、他のメンバーが対日輸入規制に賛成しろと圧力をかけてきたら、賛成せざるを得ない。その辺の苦衷を察してくれ」と。

H それが英国へ行くと、二〇項目の要求書を突きつけ、一方的に演説する、こういう態度だね。

G しかも、話の中身が問題だ。例えば、ブリティッシュ・レイランドの会長が「日本の自

証券貯蓄は
ご家庭の幸福
第一證券
本店　東京・日本橋
TEL 244－2611(直通)

動車はけしからん。輸出ばかりで輸入はちっともしない。関税を下げろ」と言うんだ。自動車の関税がゼロになっているということさえ知らない。そうすると日本側は、不勉強なくせになんと居丈高な！ってカッとしちゃう。

フランスのジョベール貿易相も「日本にとってフランスとの貿易は死活問題だろうが、フランスにとって日本からの輸入で絶対必要なものは、ひとつもない」といささか乱暴な態度だった。

E それにはいろんな経緯があった。この間ロンドンで聞いたんだけれども、ある英国人が「この頃日本人は自分の言いたいことだけじゃんじゃんしゃべって、こっちの言うことをちっとも聞こうとしない」と言っていた。それに例えば国際収支の問題でも、日本が真剣に取り組んできたという過去の実績がない。こうした鬱積した不満が、ここへきて爆発したということではないかな。

H そういう要素はバカにならないね。

E それにお互いの人物も知らない。ジョベール——ぼくは彼をよく知っているんだが——にしても、変わった人物でね、物の言い方をちょいとひねるんだ。フランス人にはよくある手なんだけど。慣れていれば、彼またやったなって思うだけで、カッカッとすることもない。

英国人の意地の悪い言い方だって、何も日本だけに対するものじゃないんだ。あの国は経済は落ち目でも村の顔役みたいなもので、他国のことばかり言っちゃうんだ。だから、英国にしろフランスにしろ、知らない日本人には実際以上に強く響く。普段のコンタクトが足りないから、一つの言葉に触発されて怒りが大きくなったりすると思う。

H 英仏が特に日本に対して手厳しいのは、国内で深刻な失業問題をかかえているためかね。

G それは確かに事実だ。だけど失業率やインフレが高いのは、ベルギーなども同じ。やはり英仏両国はかつてのヨーロッパの大国としてのプライドがあるんだね。自動車産業にしても、両国は、自国の自動車産業にとりわけ誇りを持っている。それが日本に押されっぱなしでは、プライドも傷つくというものだ。

E それは非常に大切なポイントだ。逆にその裏返しとして、コンプレックスも強い。その微妙なところを理解することが大切だ。

G ECと言っても一枚岩ではなくて、それぞれの国がある意味では大変エゴイスティックにナショナル・インタレストを主張している。それはわかっていたんだけれども、実際に行ってみて、それぞれの国にふさわしい柔軟な対応をしたかというと、とてもそこまでは……。

稲山使節団は、みな日本を代表する偉い人たちばかりなんだが、ヨーロッパを本当に知っている人が果たして何人いたのか、率直に言って首をかしげざるを得なかった。

遅れている日欧関係

本社 改めて政治、経済、文化も含めた相互理解ということの、重要さを感じますね。

E 日欧関係は日米関係に比べて二〇年遅れているとぼくは思う。日米関係は、戦後お互い切磋琢磨してきた。経済摩擦にしても、一ダラー・ブラウスから、自動車、エレクトロニクスまで、常に議論をたたかわせながらなんとか調整してきた。日本経済にとっての対外問題というのは、はっきり言えば対米問題であって、ヨーロッパなんか問題にしていなかった。

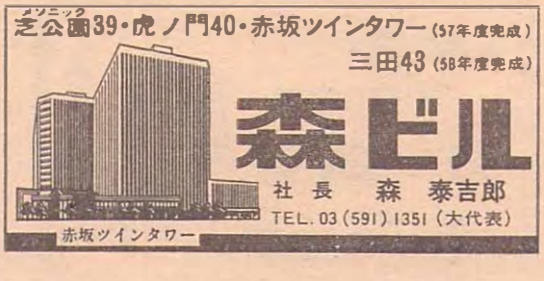
日欧関係というのは、戦後四〇年近く閑却されていた。このミゾは意外に大きいと思うよ。

H 例えば通訳一つとっても、日英の通訳と日仏の通訳では能力に大変な差があるね。日独はもっと落ちる。

E 日本にはフランス語を話せる実業家も皆無だろう。それに、日本が受けているアメリカ文化の影響から見ても、ヨーロッパとはよほど努力しないと波長が合わない。会議の運営にしても、西欧はアメリカのように手っとり早くやる習慣がないから波長がくるってくる。日欧関係はもう少し親身になってやらないとよくならない。

F でも、交流の回数を重ねていけば、少しずつ改善はされてくる。ぼくは西ドイツに長いこといたんだが、ドイツの場合は、日本との会合が比較的よく持たれているんだ。関経連などは毎年日独経済会議を開いている。西独からはラムスドルフ経済相や商工会議所の会頭も出席して、いい雰囲気になってきた。こういうことは、根気よく誠意を持って接触を続けないといかん。

E 今回の稲山ミッションの



経験が、日欧間の経済摩擦をなくすような調整努力を真剣に考える突破口になればいいと思うんだがね。

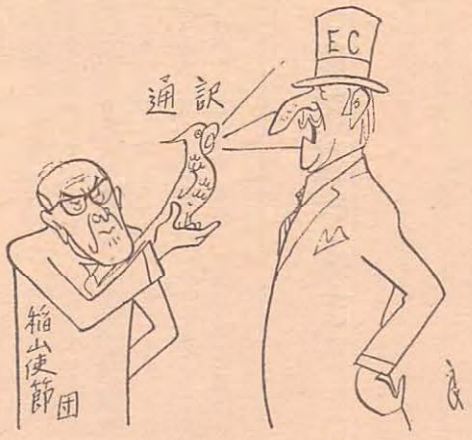
ところが、ショックを受けた割には調整するという意思がない。やはり、日本は日米に比べて日欧を軽んじている。そこに非常な問題があると思う。

F 日米関係のように打てば響くというところまでもっていくのは、時間がかかりそうだ。

E 日欧間の貿易不均衡は、輸出調整で本当に解決できるのか、あるいは、もっと大胆な輸入で解決するのか、関税以外の貿易上の障壁（ノンタリフ・バリア）があるとすれば、何が本当のバリアなのか……といったことを、具体的に話し合う時期に来ているんじゃないか。

F まったく同感だ。日本も経済構造や輸出構造を真剣に考え直しているんだということを話せば、向こうも納得してくれると思う。

「日本の経済構造そのものが原料を主に入れるようになっていて、製品輸入の比率があまりに少ない。それと国際的な労働分業というか、そういう考え方をもうちょっと取り入れなきゃいかんのじゃないか」――。というのが西ドイツの人たちの常套的な発言だ。



通訳の不手際が問題

ドイツに対する非難が少ないのは、輸出品目が多様化しているからだ。それに製品輸入もするし、フランスにとっては大のお得意さんだもの。

H 輸出にしても少数品種に集中しているから、いろんな反発が起こる。

F よく指摘されることだが、日本より輸出比率の高い西ドイツに集中して外債を募集して成功した。苦労してカネを借りると親しくなるからな」と言っていた。なかなか含蓄のある言葉だと思うね。政治・経済・人脈のパイプなど相互に密接にからみ合わせていかないと、今後の日欧関係の打開はむずかしいよ。

態度で示せ

H 日本側が輸出規制するとしても、業界の反対もあってなかなかむずかしい面がある。輸入品についても、一〇〇億ドルを超す対ECの貿易黒字を解消できるほど輸入するものはない、というジレンマがある。

F それはそうだが、それよりも重要なのは日本側の姿勢だよ。例えば、非関税障壁などはほとんどなくなっているというものの、まだ薬品なんかは必要以上に厳しい検査を受ける。それ以外にも、流通機構などの点で、日本の場合かなり差別的なことをやる。例えばヨーロッパの品物を倉庫に入れてくれないとか、自信のある西ドイツでもブツブツ言っている。

G 批判を受ける材料というのは確かにあるんだね。家電、オートバイ、自動車、光学機械、精密機械など貿易のアンバランスを助長している中でも、特にドッとヨーロッパ市場へ出て行っているものがあるんだ。向こうはそれをもう少しお手柔らかにと言っているわけだから、そのような姿勢を示さんといかんのじゃないかな。

E ゲランの「夜間飛行」という有名な香水があるね。その中の成分が有害だというので、発売を差し止めるとか、東京の支店を閉めさせるとかいう問題があった。

日本人は生真面目だから、そうなっちゃうのだが、フランス

豊かな明日を築く
丸三証券
本店　東京 日本橋2-5-2 TEL 272－5211

にしてみれば、世界中で売られているものを、なんで日本だけが……ということになる。こういう問題は、ほかにもままあるんだ。

G　オランダのチューリップの球根なんかもそうだね。日本だけが、バイ菌がいるかもしれないというので、一年間栽培して花を咲かせて、次の第二世代のものしか日本国内に出してはいけないんだ。これも何年越しのクレームがついているが、全然解決されていない。

向こうも、貿易不均衡が短期的に解決できるとは思っていない。基本的には日本が真剣に取り組んでいないということを感じるから、いら立っているのだと思う。

E　ヨーロッパと仲良くしようと思ったら、現在はこちらが経済が強いんだから、ある程度包容してやらないとね。

G　この使節団が行く前にECの大使が全部集まって、レクチャーをやった。その時、英国大使が「日本は最近、ヨーロッパに対してあなたたちの輸出努力が足りないのだと言う。これを聞くたびに、小学校時代によく先生が『努力の要あり』と通知表に書いていたのを思い出す」と言っていたよ。

これはヨーロッパ流の皮肉なんだね。いかにも日本は先生のごとくに振る舞い、自由貿易の論理に従ってやっているのに、なぜ非難されることがあるんだと言うけれども、仮に一〇年前はどうだったか考えて欲しい、そういう歴史的視点が欠けているんじゃないかと言っているんだ。これには耳を傾けてみる必要があると思うな。

■台　湾

中国大陸との縁は蔣経国時代まで

本社　中華人民共和国国慶節の前日（九月三〇日）、葉剣英・全国人民代表大会常務委員長は、台湾に対し第三次国共合作九項目提案を行ないました。さらに中国の胡耀邦主席は辛亥革命七〇周年記念大会（一〇月九日）の演説で、蔣経国・国民党主席ら台湾各界代表が中国大陸を訪問するよう招請しました。

中国大陸から寄せられた熱烈なラブコールに、台湾政府は終始冷淡な態度をとっていますが、この問題は今後、どのように展開していくのでしょうか。

Z　中国の台湾復帰工作の事実上の責任者である廖承志（全人代常務副委員長）は、事前に台湾にも根回し済みであるかのような含みのある発言をしていたね。それを考えると、一見、現実性があるかのようにもみえる。しかし、台湾サイドの事情からいって、国共合作の可能性は極めて低いんじゃないか。

華僑資本が狙い

W　今回の提案は急に出たような感じだが、既に今年一月ぐらいから、国共間にいろいろな動きがあったんだよ。

Z　例えば？

W　まず、一月には蔣介石のかつての軍事顧問だったシェンノート将軍の夫人、陳香梅が北京へ行った。そして北京から台北に行った。このあたりから従来と違った動きが現われた。

その直後に廖承志が、宋美齢蔣介石夫人の大陸への招請みたいなことを間接的にやっているわけだね。これは中国側としては、宋美齢が蔣経国総統とうまくいっていないことも読み込んだ上でのことだと思う。

X　それから、五月の終わりぐらいに孫文夫人で宋美齢の姉の宋慶齢が亡くなったときも、中国は蔣一族の十数名に、葬儀に参列するならば招請したいと申し出ている。だが、いずれも空振りに終わった。

W　結局、いまの提案では台湾に受け入れる条件はない。ただ、注目したいのは経済協力を要請していること。あの葉剣英の提案の後、胡耀邦が再び提案したし、引き続き広東省の第一書記の任仲夷が、台湾の工商業界に対し、いま広東省などに盛んにできている経済特別区への投資を呼びかけた。

この辺に中国側の大きな狙いがあるんじゃないかと思う。

Z　その可能性は十分考えられる。いま中国は「四つの近代化」がうまくいっていないし、西側との経済協力も暗礁に乗り上げている。今後、中国が工業的にテイクオフしていくためには、どうしても広東、福建あたりの経済特別区を中心に経済建設を進めなきゃならんと思うんだよ。そこに、華僑の資本を入れたいという差し迫った事情が

あったんじゃないか。

X　胡耀邦・鄧小平体制が内部的に難しい問題をかかえていて、そのジレンマを外に転嫁するために、あえてこういうジェスチュアをやったのではないかという見方もある。例えば、近代化の遅れとか、軍の不満をそらすためとか……。

Z　軍？

X　いまの胡耀邦・鄧小平体制に対して軍は批判的だと言われている。軍がいまだに〝人民解放軍〟であり、〝国防軍〟にならずにいるのは、タテマエとして台湾が残っているからだ。

Y　いろんな見方があるが、中国的発想をすれば、ものは言っておく分には損はないということ（笑）。とにかく何回も何回も言っておく。これも一種の中国的な商売のやり方なんだ。

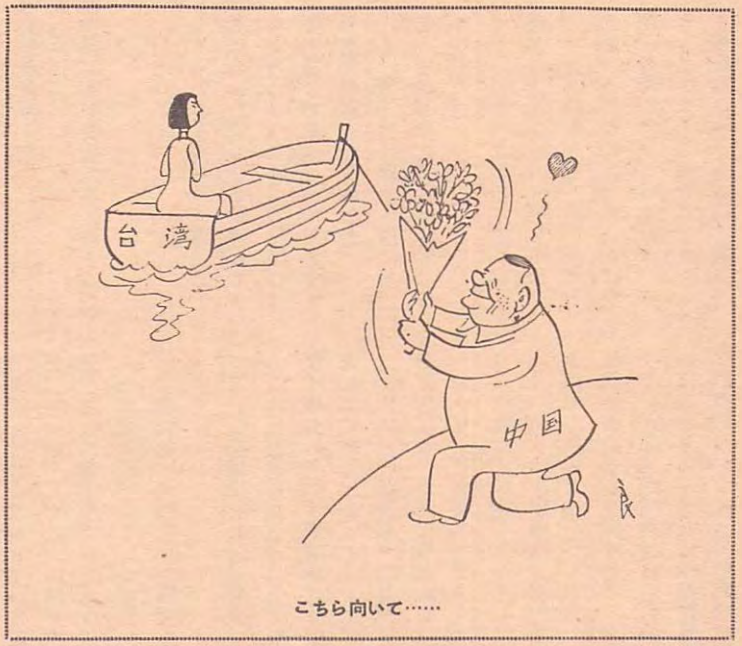
「われわれ共産党は平和的な手段を考えているんだ」と、たび重ねて主張しておけば、いざ武力を使うハメになったときに、その言い訳にはなる。

世界は実質「台湾」承認

W　一方の台湾の冷淡な態度は含みも何もない断わり方であって、あれがホンネであり、タテマエでもある。駆け引きをしている感じじゃないよ。

X　中国の要請を断わる理由は二つある。一つは対中国共産党。現在の力関係からみて、話し合いに応じれば、共産党のペースに巻き込まれてしまうという危惧が国民党の側にはある。

もう一つ、これは日本の新聞がなかなか触れたがらない点だが、もともと台湾に住みついていた本省人たちの問題がある。彼らにしてみれば、国民党は大陸から逃げてきた人々だから、大陸と一緒になるのも分からないではない。しかし、自分たちは中国共産党なんて、まっぴら御免だという意識が非常に強い。



こちら向いて……

Y　日本においてしばしば、台湾は中国の固有の領土だということが常識になっているかのようだ。だが、歴史的にみると台湾が中国の一省になったのは一八八五年から一八九五年の間の一〇年間だけなんだよ。

Z　その後、五〇年間日本の統治を受けているね。

Y　また、日本の敗戦で台湾が中国に復帰したときから、国民党重慶政府が大陸を追われるまでは、たった四年足らず。蔣介石が台湾に来て、大陸と台湾は完全に分離してしまったわけだから、むしろ別々だった期間のほうが長い。

Z　中国大陸を「祖国」と思わない人も少なくないわけだ。

Y　台湾にいる大陸系の人たちも、かなりの部分が戦後台湾で生まれ育っている。それに、台湾の人口構成をみると、八五％が数世紀前から台湾で暮らしてきた人たち、いわゆる台湾人なんだ。そういう人たちは、大陸に対してノスタルジアどころじゃないと思う。だいいち、見たこともない。

W　台湾の一人当たりのGNPは中国の約八倍。ことしの成長率は六％ぐらいだと言われている。九項目提案の中で「台湾の地方財政が困難となれば、中央政府は援助する」なんて言われても、笑止千万と笑い返す実績がある。

ましてや台湾に生まれ育った人たちは、ある種の新しいアイデンティティを作りつつある。いま国民党とは言っても、経済的にも外交的にも実質は「台湾共和国」だからね。国共合作なんて時代遅れでは。

X　皮肉なことに、しだいに

ばねを通して明日をみつめる
日本発条
●自動車・車両用ばね●自動車用シート●動く家具●精密ばね●配管支持装置●発泡シール材●省力化機械装置
本社：〒235 横浜市磯子区新磯子町1番地　045(751)1261㈹

次号予告

（創刊記念号・9日発売）

《総合研究》日本のロボット
住宅不況深刻化と土地税制改正構想
行革法案の意味と効果を問い直す
欧州の失業問題は来年さらに悪化へ
時代と人間・石橋湛山　小島直記
サントリーの経営多角化戦略が狙うもの
九月中間決算の分析《主要六社》

（都合により一部変更することがあります）

大陸と別個な存在となりつつある台湾を「一つの中国」という言葉でくくれるのは、共産党と最も敵対してきた国民党が台湾にいるからなんだ。

Z　全く立場は異なるけれども、国民党も「一つの中国」を標榜し、台湾は中国の一省だという体裁を整えたわけだしね。

X　国民党は同じ皇帝の子孫だ、と繰り返し繰り返し教育した。しかも日本語と閩南（びんなん）語しか通じなかった地域に、きちっと北京語の教育を施した。この点、共産党は国民党に感謝しなきゃいけない。

W　あと一〇年もたってポスト蔣経国の時代になれば、共産党はますます中台統一なんて言えなくなってくる。今回の提案にはそういう焦りもあったんじゃないか。

Y　鄧小平は、私は蔣経国と話し合いたいんだと強調してるね。あれはやはり、蔣経国の時代に話しておかないと、ますます条件が悪くなるからだ。

Z　国民党の人たちは、共産党の呼びかけに応じる意思はあるのかい。

Y　いや、ないね。大陸で国民党が政権を握っていた時分、いい目を見た人たちは、もう七〇歳、八〇歳になっている。現在、台湾の中枢にいる軍人、テクノクラート、財界人、こういう人たちの多くが本当に権力の味を知ったのは台湾に来てからだよ。大陸における輝かしい経歴なんて全くない。

X　国際環境ももはや実質的に一台一中になりつつある。ここ数年、一つの中国、一つの台湾という、ホンネだけれどタテマエとしては伏せていた部分が頭をもたげてきた。

Y　現在、国民党政権を「中華民国」として承認している国は二三ヵ国。しかし、中国を承認しているはずのアメリカは、「台湾関係法」なるものを作って、実質的に台湾に外交特権を与えている。

X　台湾側の在米代表機関である北米協調委員会の人たちは、年がら年中、米国務省に出入りして高官と会っているよ。

オランダの場合も、民間取引だと称して、台湾に潜水艦を売っている。潜水艦が民間取引だなんて普通は通用しないがね。

Z　そこで中国は欧米諸国を牽制する意味で「一つの中国」を改めて宣言したわけだ。

Y　なぜ国民党政権は話し合いに応じないんだという国際世論が高まってくると、国民党の対応も難しくなるね。

一九七一年に中国が「台湾同胞に告ぐる書」を出して統一を呼びかけて以来、海外の華僑は中国の提案に耳を傾けるようになってきた。

Z　特に、今回の葉提案の中に「両党が対等の立場で交渉したい」とあるからね。国民党として黙殺しづらい。

W　じわじわ外堀を埋められてきたときに国民党がどんな対応をとるか。おそらく、統一は難しいけれど、経済的には新しい動きが出てくると思う。今後、香港あたりをベースに経済交流は拡大していくだろう。

Y　貿易についてみると、台湾経済は同じ新興工業国の韓国にかなり圧迫を受けている。商売人というのはどんな穴を探しても儲けようとするから、必ずや台中貿易に興味を示してくるよ。現にダミー会社を使った密貿易も行なわれている。

「国台」合作が問題

本社　台湾内部の不安要因は何ですか。

W　国民党もあと一〇年もしたら、それこそ国民党世代はいなくなってしまう。そんな状況の中で、国民党自らが自己の正当性、レジテマシーをどういうふうに確保していくか。政治的な自由の面では、まだ制限されているところがあるからね。

Y　国民党は「一つの中国」をよりどころに、過去三四年間、国会議員の全面的な改選をやっていない。いま大陸は共産党に占領されているから、向こうで選挙ができないというのがその理由なんだ。

Z　ホンネは国民党支配に批判的な無党派を押さえる意味もあるんじゃないかな。

Y　国民党政権は新しい政党を許していない。だから、既成政党に批判的な人たちは無党派

明日をささえる
西松建設
社長　橘　義夫

ということになっている。

彼らに対する支持は非常に高まっていて、一昨年の地方選挙では、得票率が三〇%を超えた。国民党にとっては一つの脅威なんだ。

W　いまの国会議員は皆、昔の重慶代表、四川省選出なんて言っているわけで、フィクションの上に成り立っている。このフィクションがいずれ崩れるときが来る。

Y　一九四七～一九四八年に選ばれた代議士が死亡した場合、大陸で立候補したときに次点になった者が上がっていく。この次点が死んだ場合、今度は第三の人が上がっていく。そうしたら、つい先月、こういうケースが出てきた。ある国会議員の何番目かの補欠、その人は得票数がたったの七票、それで国会議員になってしまった(笑)。台湾は非常に教育レベルが高いから、いつまでもこんな状況を続けていけるわけがない。

X　非常に際どい問題だね。「一つの中国」を掲げれば共産党につけ込まれて、国共合作をもち出される。逆に、国民党がこのまま台湾で台湾の民衆とともに生きていくためには、「一つの中国」に乗っかったフィクションをいつか断ち切らなければならない。そうなった時、国民党が引き続き政権を引き継ぐことを台湾人が許すかどうか……。

W　国民党は国共合作と国台合作のはざまで揺すぶられることになるわけだ。

X　だから、大陸からの国共合作の呼びかけが強まれば強まるほど、台湾に大きな内部変革を引き起こす可能性が高まる。これまでの歴史をみると、国共合作は次の大闘争の決着をつけるための準備期間だったということをわきまえておいたほうがいいね。

W　その点、日本の新聞は北京の戦略に踊らされているようなところがある。

本社　蔣経国総統の後継者問題はどうですか。

Y　蔣経国はいま七五歳で健康がすぐれない。しかし、ポスト蔣経国となると全く分からないのが実情だ。いまの副総統の謝東閔は台湾人だが、憲法上の規定では彼がなる可能性がある。しかし、なってもワンポイント・リリーフだね。実質的に最右翼と言われているのは陸軍大将で総政治作戦部主任の王昇。

Z　しかし、彼は諜報活動出身だから、あまり一般的な支持は得られないと言われている。

Y　そのほか、インテリに人気があるのが李煥。経済官僚とか行政官僚をバックにした孫運璿が案外ダークホースではないかという声もある。

X　蔣経国の腹違いの弟で、聯勤総司令官の蔣緯国が有力だという人もいるが果たしてどうなるか。いずれにせよ蔣経国時代が終わった後の台湾は、読みにくい要素が多いね。(敬称略)

今週の予定

11. 2(月)大蔵　10月外貨準備高
　　フセイン・ヨルダン国王訪米
　4(水)建設　9月建築着工統計(速)
　　プレム・タイ首相来日
　5(木)日銀　10月輸出信用状接受高
　　ロッキード事件(児玉・小佐野ルート)判決
　6(金)経企庁　9月機械受注実績
　　日銀　9月マネーサプライ

信念のエコノミスト
下村博士の日本経済への処方箋！

日本経済の節度

東経選書　既刊 103点

下村 治著

1200円〒250

日本経済の強さは見せかけだ！
貿易摩擦、円レートの乱高下、財政再建等々多くの難問に直面している日本経済は今こそ安定均衡を目指すべきだ。下村博士の日本経済診断書

《東洋経済新報社》

週刊 東洋経済　昭和56年11月7日号

全面解剖―ソ連の金戦略……松井　謙…26

欧米金利引き下げ作戦 ―財政赤字の削減に賭ける―……44

原子力大国・米仏の新戦略 原子力／連載2

アメリカ＝軍事重視で平和利用後退……50

フランス＝積極姿勢続けるミッテラン原子力商法……54

隠れた実力企業七社の稼ぎ方研究……32
インドネシア石油／信州精器／台糖ファイザー／スズケン／横河・ヒューレット・パカード／セガ・エンタープライゼス／三豊製作所

金融革命を触発する新型投資信託……78

今週の問題

国際コンフィデンシャル　IMF加盟に傾く共産圏……長谷川慶太郎…43

フラッシュ　海外＝AWACSは新中東政策の糸口……14

フラッシュ　会社＝旭化成、朝日麦酒の筆頭株主に……15

金融・資本市場　株式相場＝下値確認から反騰態勢……59

社説　稲山訪欧＝誇り高き国に通じない無手勝流外交……16

社説　台湾＝中国大陸との縁は蔣経国時代まで……20

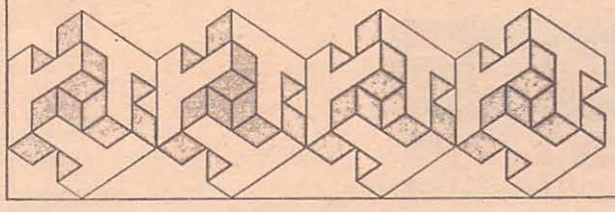
社説　訪欧使節団の報告を無視するな……62

ギリシャ現地報告　●穏健路線パパンドルウ人気……吉田倬也…76

今週の主要記事

▽…全面解剖―ソ連の金戦略　深刻なドル不足を反映してソ連の金売却が進んでいる。先行きドルの〝軟化〟をにらみながら、今後、いっそう巧妙な売却作戦を展開していくことは必至。国際通貨体制への揺さぶり、金ルーブル制度の運営など、ソ連金戦略の全貌を明らかにする……(26ページ)

分析計の堀場製作所
●環境計測機器●研究用分析計●工業用分析計●自動車排気ガス分析計



HORIBA
株式会社 堀場製作所
京都市南区吉祥院宮の東町2
☎(075) 313―8121　〒601
東京都千代田区岩本町3-1-2(扇ビル)
☎(03) 851―8231　〒101